

11月22日(金) 9:30~12:00

◆第2分科会

「自治体と地域住民と事業者の協働」

◆パネラー

【美 瑛 町】地域住民
菅野勝見

× 小規模多機能ひなた
石崎真美

【幌加内町】地域住民
小川雅昭

× スマイルホームえん
蔵前直美

【霧 島 市】長寿・障害福祉課
南郷正輝

× 地域密着型サービス連合会
竹下智行

◆コーディネーター

立教大学コミュニティ福祉学部

教授 森本 佳樹

【MEMO】

自治体と地域住民と事業者の協働 ～ひなたの実践と課題～



全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会「全国大会」

平成25年11月22日(金) 第2分科会

地域住民(民生委員・利用者家族) 菅野勝見

美瑛慈光園 小規模多機能ひなた 所長 石崎真美

《発表の内容》

- 美瑛町の概要
- 美馬牛地区の概要
- ひなたの紹介
- 昼食交流会の実践、課題
- 『美馬牛地区生活支援ネットワーク』
について 菅野さんからの提案



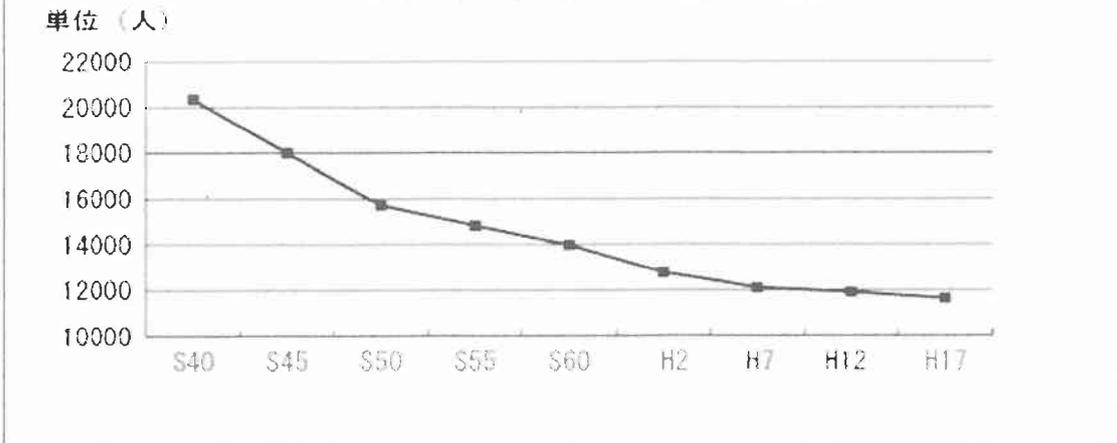
1945年



↓
10年後



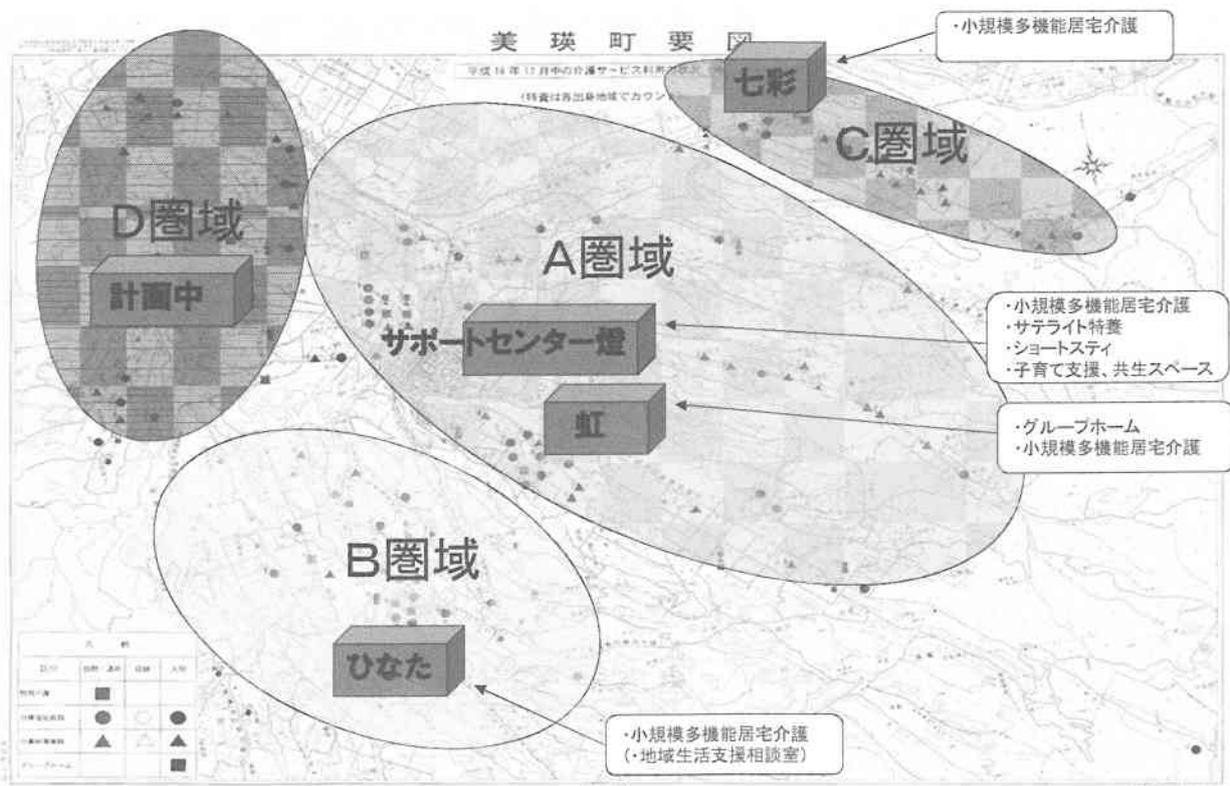
人口の推移（国勢調査時点）

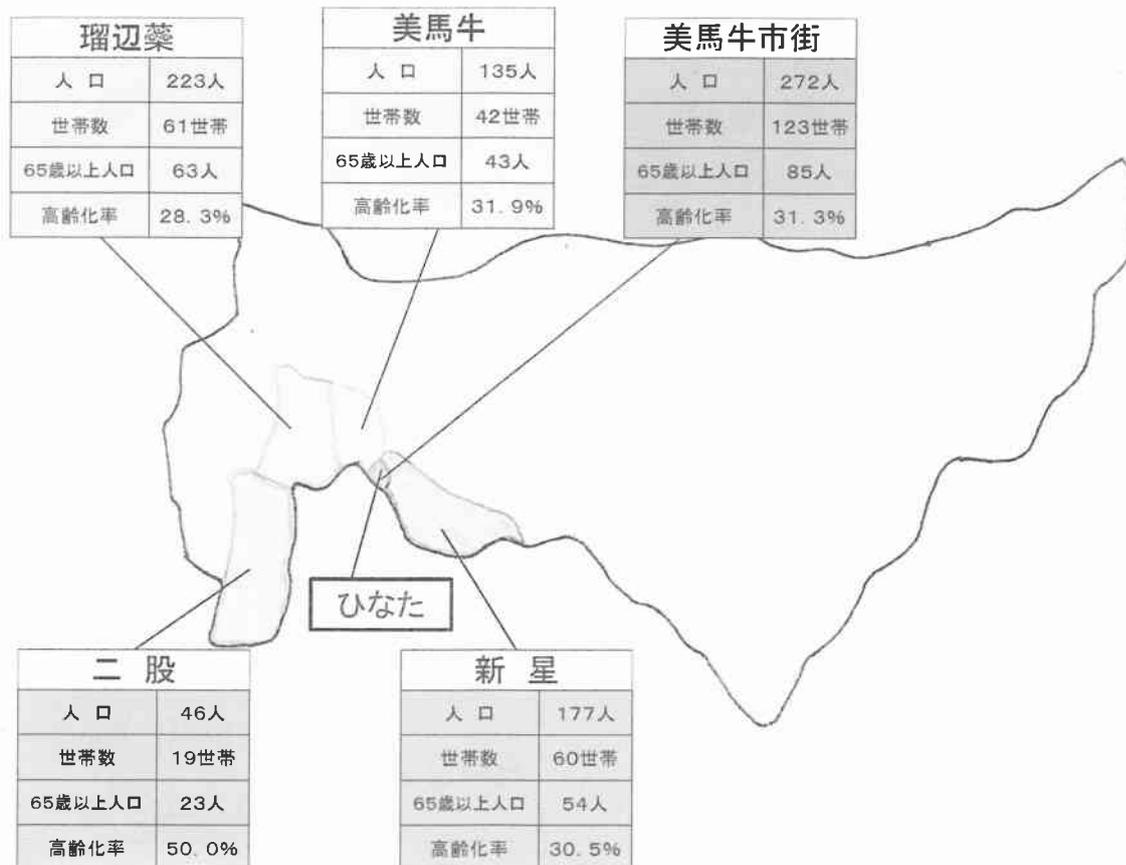


人口 10,710人（平成25年9月30日現在）

65～74歳	1,610人	3,693人	高齢化率 34.48%
75歳以上	2,083人		

生活圏域ごとに拠点となる小規模多機能事業を





ひなたの紹介

- 2年前から準備会を立ち上げ、地域住民との「こうあって欲しい」「地域にこんなものがあったらいい」・・・という議論を重ねていきました。
- 美瑛町美馬牛に、平成21年4月から開設。
- 定員は24名（通い12名、泊まり4名、訪問随時）

※ 平成25年10月の実績 24名
 （通い9.6名、泊まり3名、訪問6名（延べ57回））



地区別のひなた利用者の数

地域	要介護	要支援
美馬牛市街	4	3
美馬牛	2	0
新星	4	2
留辺薬	2	3
二股	0	1
美瑛	1	2



千歳会館での昼食交流会の始まり

- ひなたの要支援者の利用の増加
⇒ 日中、出かけていく場がない。
- …小規模多機能だけでは無理だ！たまり場が必要だ！
⇒ 地域の交流の場として、集える場を
企画しよう！地域の会館を利用しよう！！

- 平成23年11月から毎月開催。
- 参加者 美馬牛周辺の地域住民(主に高齢者)など
- 日時 毎月第4土曜日
- 参加費 400円(会場使用料金、食材代)
- 会場 千歳会館(美馬牛にある会館)

1月(21名)にぎり寿司



老人会の方々が、
いつの間にか体
操の紙を準備!



2月 認知症サポーター養成講座 (25名)おにぎり・豚汁



ひなた利用者も
地域の方々も
一緒に勉強!



運営推進会議と
の合同開催!
『認知症サポ
ーター養成講座』



3月(14名)ちらし寿司

4月(22名)町立病院医師による講演会

ほたてカレー



久しぶりだね!



町立病院の人気
医師による講演会

5月(9名) 冷やしラーメン

6月(16名) 手打ちそば 笑いヨガ



地域で笑いヨガ
をしている方が
講師となって...



- ・ 7月(14名)彩どりソーメン
- ・ 8月(15名)お好み焼き
- ・ 9月・・・ゲートボールの大会と重なり、参加者が集まらず、来てくれた1名はひなたで食事した。
- ・ 10月(16名)餃子鍋、おにぎり

《今後の予定》

- ・11月 ちらし寿司
- ・12月 餅つき
- ・1月 にぎり寿司

※メニューは前の月に話し合い、決める。

材料は、事前にひなたの職員が購入。

昼食交流会《今後の課題》

- ①美馬牛市街(歩いて来れる方)の参加が多い。
市街以外の方は送迎の足がなく来づらい状況。
⇒送迎に関して、地域の協力を得ることができるか。次回、運営推進会議で相談。
- ②普段あまり外に出てこれない人が集える場にしたいが、現状では活発に外に出て来れる高齢者の参加が多い。
⇒次回、運営推進会議で相談。各地域で、行う？
来れない人には訪問する？

菅野さんの提案(運営推進会議にて)

「以前は、3~4世代、多くの家族に囲まれていた。子どもも老人も多くの家族に見守られて生活していた。最近は、少子高齢化のため、老人世帯や一人暮らしの老人が増えてきた。隣の近い市街地とは違い、農村部では隣の明かりも見えず、専業農家の多くなった農村では本人の姿を何日も見ない事が多くなってきた。周りの人たちも多忙になってきた。

本人達は、できる限りこの地で住みたいと願っている。老人を手助けできる方法、できることがあるのではないのでしょうか！」

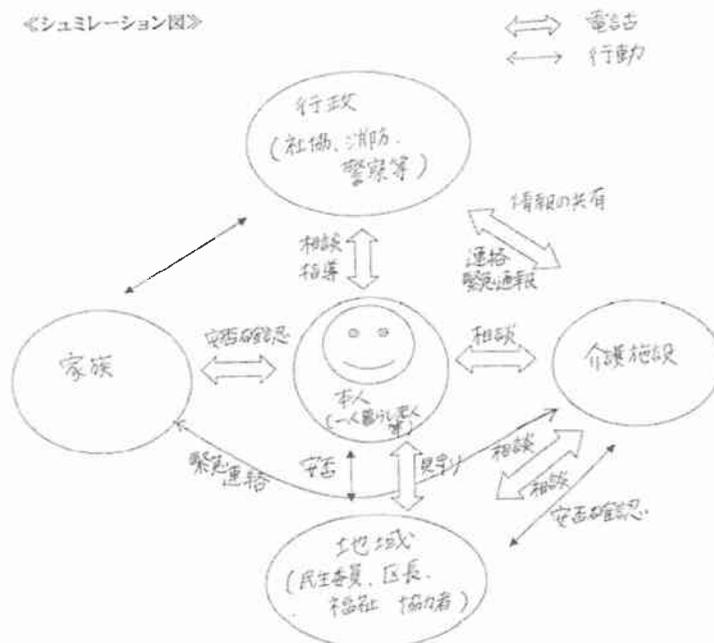
○キーワード

- ・普及してきた携帯電話 ・地域密着型の老人介護施設ができた
- ・行政、介護施設、地域と遠方にいる家族との交流

○1つの提案

- ・人と人との繋がりは対面の話し合いでした。それを携帯電話で日常的にできないでしょうか。

⇒ 『美馬牛地区生活支援ネットワーク』
の話し合いの始まり・・・



《拡大対応》

- ・老人世帯の地域図の作成 ~ 緊急時の対応
- ・特別・持病の緊急の情報の保管
同じ方法、同じ所に保管し、救急時に備える
- ・認知症の早期発見
- ・訪問詐欺等の予防

孤老の死 3年で169人

旭川市内で2006～08年度に、誰にも気付かれな
いままてなくなった一人暮らしの高齢者(65歳以上)が計169人になることが旭川市社会福祉協議会などの調べで分かった。11月以上も発見されず孤独死したケースもあり、同社協は一人暮らしの高齢者に、安否確認事業などへの参加を呼び掛けている。

同社協が、道警旭川方面

旭川 増える「発見遅れ」

本部などに協力を求めて調査した内容をまとめた。同社協によると年度別の孤独死は06年54人、07年51人、08年61人。職業別では97%が無職で、男女別では61%が男性だった。死因では88%が病死で、自殺は8%。亡くなってから発見までにかかった推定日数で、当日と1日以内を含む48%(81件)にとまらないうち、08年度には20人と増加していることに注目。同社協は

上釋過していたことが分かった。この中には11月以上も1%(2件)あった。同社協は169人という人数について「同様のケースの道内他都市のデータがないため、多いか少ないかの比較が難しい」とする。ただ死後1〜2週間以内に発見された人が06年度9人だったが、07年度に14人、08年度には20人と増加していることに注目。同社協は

社協、安否確認参加訴え

社協、安否確認参加訴え

「発見の遅れは、旭川でも地域のつながりが希薄になってきていることを感じさせる」と危機感を募らせる。同社協は2008年から、一人暮らしの高齢者(75歳以上)に民生委員などが週2〜3回ほど市掛けをする「安否確認事業」や、茶話会などを開き、孤立感や不安を解消する「ふれあいサロン事業」を市内各所で実施している。

旭川市社会福祉協議会は「高齢者が隣近所と支え合って、生きていけるような体制づくりを今後も進めたい」としている。

「発見の遅れは、旭川でも地域のつながりが希薄になってきていることを感じさせる」と危機感を募らせる。同社協は2008年から、一人暮らしの高齢者(75歳以上)に民生委員などが週2〜3回ほど市掛けをする「安否確認事業」や、茶話会などを開き、孤立感や不安を解消する「ふれあいサロン事業」を市内各所で実施している。

旭川市社会福祉協議会は「高齢者が隣近所と支え合って、生きていけるような体制づくりを今後も進めたい」としている。

(高橋 毅)

美馬牛地区生活支援ネットワーク

1. 会員

希望する人の登録制

会員カードに、氏名・住所・電話場号・緊急時の連絡先・身体状況・かかりつけ病院・主治医・協力員の記入と、個人情報に関する同意書に署名捺印してもらい、ひなたに保管する。

2. 協力員

行政区長、民生委員、ひなた運営推進会議メンバー、老人クラブ役員、福祉部長、隣近所の人・・・他協力者

3. 運営主体

運営主体は、地域住民で『生活支援ネットワーク会議』を将来的に目指し、当面の間は、ひなた運営推進会議の中で行っていく。事務局は当面はひなたに置く。

4. 具体的活動

- 日常の相談、安否確認
 - ・・・協力員が中心に行う。
- 緊急時の対応

① 家族が、本人の安否を確認できない



② 体調が悪くなったとの連絡が入った



